

1. 件名：福島第一原子力発電所における実施計画の変更認可申請(多核種除去設備クロスフローフィルタ国産品導入)に係る面談
2. 日時：令和5年7月12日(水) 10:00~12:45
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁 原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
正岡企画調査官、横山係長、石井安全審査官、植木技術参与
検査グループ 専門検査部門
山元首席原子力専門検査官、丸山主任原子力専門検査官
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当2名(テレビ会議システムによる出席)
福島第一原子力発電所 担当2名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、多核種除去設備(以下「ALPS」という。)の前処理設備で使用しているクロスフローフィルタ(以下「CFF」という。)の供給の安定化を意図した国産品導入に係る実施計画の変更認可申請について、資料に基づき、主に5月22日の面談において指摘した事項に対する回答の説明があった。

○原子力規制庁は説明を受けた内容について事実関係を確認するとともに、主に以下のコメント等を伝えた。

- 使用前検査の項目について、記載の変更の有無に関わらず受検する項目を一覧表で全体がわかるよう示すとともに、本件のように系統内の一部の部品を交換する際に必要な検査項目について整理し説明すること。
- 国産品 CFF エLEMENTの圧力損失について、国産 CFF 試作機の試験結果で得られた試験値より外挿を用いることで、定格流量における圧力損失の評価を行っているが、その評価の妥当性について使用実績を踏まえ説明すること。
- 最近の既設 ALPS の CFF で発生した漏えい事象について原因の検証を行い、今後の対応について説明するとともに、国産 CFF 導入にあたり同様の漏えい事象が発生する可能性があるかについても説明すること。
- 耐震評価における定ピッチスパン法について、配管の曲がりや分岐によるスパンの減少率の扱いを記載して説明すること。また、支持部に集中荷重であるクロスフローフィルタ本体が存在するため、定ピッチスパン法での当該状態の取扱いの妥当性を示すとともに、クロスフローフィルタ本体の応力評価結果も示すこと。

○東京電力より、上記コメントについて了解した旨の回答があった。

6. 資料

- 多核種除去設備クロスフローフィルタ国産品導入に伴う実施計画変更認可申請について
- 福島第一原子力発電所特定原子力施設への指定に際し東京電力株式会社福島第一原子力発電所に対して求める措置を講ずべき事項についての適合性について（多核種除去設備クロスフローフィルタ国産品導入）

以上